

この4年間(安城市市民協働推進計画期間)で進展したこと、依然として課題となっていること(1/8)

【基本方針1:市民協働に関する情報提供】

施策	進展したこと(成果)	依然として課題となっていること
(1)協働意識の醸成		
①協働シンポジウム・フォーラム開催事業		
②「市民協働出前講座」事業		
③★「協働事業事例集」発行事業		◆せっかくの情報誌も行った先々でとまってしまい、多くの人のところへ届けるには？ ex.町内会へ届けてもその先の要望は伝えているの？
(2)多様な媒体を活用した情報の発信・共有		
①市民活動活性化事業 (情報受発信)		
②情報共有促進事業 (ウェブサイト及びソーシャルメディアの活用)	●市民交流センターのFBを安城市役所のFBにもフォローしており、PRが広がっている。	◆協働事業についての情報が皆んなに伝わるのがもっと必要だと思います。 ◆Face bookの通知が多すぎて一つ一つ見る気が少なくなる。分野毎に分けて発信できたり、文字でなく絵で分かりやすく伝えられたりすると良い。 ◆交流センターについて……市民活動団体へのフェイスブック入門講座を行ったが、開設にとどまってつながっていない団体も多い。 ◆「市民活動情報サイト」にボランティア募集等の案内があるが、あまり活用されていない。市民にも知られていないと感じる。 ◆安城市のアカウントはツイッターでフォローしているが、市民活動に関する情報を見たことがない。情報の出し方に工夫があるのではないのでしょうか。 →社協の登録でOKになったので、活動サイトの内容をセンターの職員さんに入力してほしい。 →若い人が入らないという団体があるがFBなどSNSをやって発信する必要があると思う。
③情報共有促進事業 (団体登録情報共有化)		
④情報発信強化事業 (市広報や各種たよりなど紙媒体の活用)		
⑤市民協働PR事業 (集客施設・イベントにおける情報掲示板やPRブースの設置)		◆協働についての内容を多くの人に分かってもらい加入できると良いと思います。

●=進展した点カードの意見、◆=課題となっていることカードの意見、→=シートに記載の意見・メモ

この4年間(安城市市民協働推進計画期間)で進展したこと、依然として課題となっていること(2/8)

【基本方針1:市民協働に関する情報提供】

施策	進展したこと(成果)	依然として課題となっていること
(2)多様な媒体を活用した情報の発信・共有 ーつづきー		
⑥町内会加入促進事業 (町内会への加入促進に向けた啓発)		<ul style="list-style-type: none"> ◆高い町内会費を支払っているが、ただ支払っているという感じで町内会活動が不明。高い、つながりがない、恐そうな感じがある。 ◆時代にあったやり方をしてほしい。住民税の支払いをしているので、2重に支払うかのようなイメージ。住民税でまかなえるようにする方がクリーンなイメージになると思う。 ◆町内会などで加入のできる人を促進できると良いと思います。
⑦企画広報事業 (あんじょう社協だよりの発行)	<ul style="list-style-type: none"> ●SNSとかだけでなく市民として目にしやすい広報や社協だよりで、活動されている方々、内容について情報を知ることができる。 ●あって良かったことが多い。内容の充実をしてほしい。 	
(3)市民活動への参加のきっかけづくり		
①悠々熟年世代の生きがい探し講座事業	●おじいちゃん、おばあちゃんの年齢になったら仲間や友人づくりにもなって良いと思う。いつでも学ぶことの素晴らしさは必要だと思います。	
②きっかけマッチングコーディネート事業	●きっかけマッチング…行きたい人、したい人と来てほしい人とやりたい人とがつながれたと聞いています。	◆参加するきっかけになる情報が届かない。届いていないので参加するきっかけがない。
③協働事業お見合いコーディネート事業		
④市民活動活性化事業 (市民活動団体支援)		
⑤ボランティア活動振興事業 (ボランティアセンターの運営)		

●=進展した点カードの意見、◆=課題となっていることカードの意見、→=シートに記載の意見・メモ

この4年間(安城市市民協働推進計画期間)で進展したこと、依然として課題となっていること(3/8)

【基本方針2:市民協働の担い手育成】

施策	進展したこと(成果)	依然として課題となっていること
(1)担い手の育成・活用		
①市民活動活性化事業 (人材・団体育成事業)		→講座に目的性を持たせると良い。 →講座後のフォローアップ 自主活動の立ち上げ支援を! →学びから活動へ →年配者から子どもに伝えるべき。
②悠々熟年世代の生きがい探し講座 事業【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ●シルバーカレッジ ASC15期生。60歳以上の方たちが2年間受講し、その後もOB会で活動中。とってもgood! ●シルバーカレッジ卒業後も、各期生はOB会を結成しとても楽しく活動中。今までの人生で得られた才能を生かし活動中です。楽しそう! ●趣味の延長で気軽に参加できる事業が増えた。 ●いろいろの講座があり、参加できる人が増加する。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 《シルバーカレッジ》 2年で30講座 ・OB会OG会で、①街かど講座で勉強、②七夕でボランティア。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆グループはあるが結果(中身)が見えない。 →中身が分からないので、参加できない。(参加者を増やすためにはPRを!!) ◆講座を受けて、地域やボランティアに主体的に参加できるのか。 →講座受講後に活躍できる? そういう内容になっている!? →シルバーカレッジ 2年で30講座。もっと分かりやすく募集する。広報で!
③★協働のまちづくり人材養成講座 事業	<ul style="list-style-type: none"> ●エンパワーメント、まちづくり人材養成講座。受講し大変でしたが協働の重要性が理解できたと思います。 ●テレビで同じ活動していること(他市で/静岡県)がわかりました。 →市民と職員の協働の場にもなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ◆若者の出席率が低く、いつも同じようなメンツになってしまっている。 ◆受講したがこれからどうしたら(活動)よいかわからない。 →コーディネーター受講後、活動している? 知られていない!? →受講後の活躍の場・機会を! ◆せっかくの協働のための講座であっても、男性の参加が少ないと思われます。 →若者参加を! 男性参加が少ない。70歳にならないと仕事で多忙。 →男性の地域参加の第1歩を!(地域デビュー!) 脱会社人間 地域人 ◆どこに今日は行きました?と聞かれたので、まちづくりのことを受講してきましたと言うと、まちづくりのこと知らない返事があり、まだ知られていないのでPRが少ないかもしれない。 →協働以前にまちづくりが知られていない。
④市民協働コーディネーター育成事業		<ul style="list-style-type: none"> ◆コーディネーター育成事業……育成されたコーディネーターの活動状況が見えないのでは?
⑤市民活動団体交流及び活動発表会 事業 (わくわく交流会事業)	<ul style="list-style-type: none"> ●市社協が実施したマッチング交流会に参加した。その成果は確認していないが、回数を重ねることで徐々に成果が出るのでは? 	<ul style="list-style-type: none"> →マッチング交流会の成果は? →続ける。もっとマッチング交流会を! →つみ重ねればマッチングは増える! <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 乳幼児学級←シルバーカレッジを期待!現場で活躍 </div>

この4年間(安城市市民協働推進計画期間)で進展したこと、依然として課題となっていること(4/8)

【基本方針2:市民協働の担い手育成】

施策	進展したこと(成果)	依然として課題となっていること
(1)担い手の育成・活用 ーつづきー		
⑥ 町内会ノート研修事業		◆市の事業等、町内会へ依頼する案件が多すぎる。もう少し負担を分担させるような工夫が必要。 →市からの依頼事多い。
⑦ 町内公民館活動事例発表会開催事業		◆町内会の加入率が減少しているが、企画運営そのものが男性のみで行われており、女性目線が活かされていない。
⑧ 町内会長連絡協議会パソコン講座事業		→町内会への女性参加。企画運営への参加を！
⑨ ボランティア活動振興事業 (講座及びセミナー)		
⑩ 地域福祉活動推進事業 (地区社会福祉協議会会長連絡会主催事業の開催)		◆本市の地区社協の活動のあり方はキメ細やかで、市と協同で進めると更に良い方向に向くと思う。 現在はバラバラな活動のように見えているが。 →市と社協がバラバラ。 →地区社協先進地。しかし、市との協働がもっと必要
⑪ 地域福祉活動推進事業 (地域福祉活動口座等事業)		
⑫ 地域福祉活動推進事業 (自主防災組織活性化事業、地域見守り活動モデル事業)		◆地域ボランティアの高齢化が問題化し、今後の活動に支障が出るのではと心配。 →町内会、地域ボランティアの人材が不足。 ◆町内会活動の継続。多世代の参加が必要です。 →町内会の若者、中高生参加を！ 例えば、中学生の防災教育など
(2)市職員の意識改革の推進		
① ★職員向けの市民協働研修事業		◆市職員の協働意識の低さ。協働への理解が薄い気がする。 →市職員の協働意識 up but、人づくり講座を市民と職員がやるのは good！
② 職員NPO法人派遣研修事業		
③ ★協働のまちづくり人材養成講座事業【再掲】		

●=進展した点カードの意見、◆=課題となっていることカードの意見、→=シートに記載の意見・メモ

この4年間(安城市市民協働推進計画期間)で進展したこと、依然として課題となっていること(5/8)

【基本方針3:市民活動がしやすい環境整備と活動の支援】

施策	進展したこと(成果)	依然として課題となっていること
(1)市民活動拠点施設の活用		
① 市民活動活性化事業 (市民活動センター登録団体への支援)	<ul style="list-style-type: none"> ●わくセンと社協への登録が1回で済むようになりスムーズになった。 ●交流センターの登録団体への補助が充実している。例)印刷機等 →ロッカー、ボード、印刷機等の貸し出しが充実した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆機器や備品をもっと充実させてほしい。 ◆施設は充実しているが融通がきかない。◆会場として制限が多く、使える場所が少ない。 →例えば、物販ができない! キッチンカーの利用ができない! →市民交流センターは、お金絡むと一般と同じ扱いに。 →福祉センターでは、お金絡むとダメ。駐車使ってはいけないなど。 →制約が多い。CD売ってはダメとか? 分かりにくい。 ◆すべての施設の交通の便が悪い(車以外)。 →福祉センターは、バスで行くのは大変。
② 地区公民館管理・運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉センターの設備が充実している。 →例えば、福祉センターのお風呂 	<ul style="list-style-type: none"> ◆公民館における活動に入りにくい(特に転入者)。 →定年後安城に転居。昔からお住まいの方々の中には入りにくい。敷居が高い。 →ソフト面の運用を! ◆室温管理をしっかりしてほしい(文化センター)。 ◆公民館の講座が1ヶ所だった場合、近郊の人に依頼される。 →協働はどこが活動拠点となるのか? 市民は認知しているのか? →公民館事業と市民協働活動の違い。市民は理解できていない。使い分けを広報してほしい。
③地域福祉センター管理・運営事業 (福祉の拠点づくり事業)		
④市民活動活性化事業 (市民活動センター登録団体への支援)		
(2)市民活動センター機能の充実		
①市民活動活性化事業 (情報受発信)【再掲】		<ul style="list-style-type: none"> ◆市民交流センターの職員さんのNPO団体、ボランティア団体に対する知識が少し不足しているところがあるように感じる事がある。→指定管理者が代わったとき。 ◆交流センター活動が周知されていない。 →利用者限られている。もっと幅広く利用してもらえるように。
②市民活動活性化事業 (市民活動団体支援)【再掲】		

●=進展した点カードの意見、◆=課題となっていることカードの意見、→=シートに記載の意見・メモ

この4年間(安城市市民協働推進計画期間)で進展したこと、依然として課題となっていること(6/8)

【基本方針3:市民活動がしやすい環境整備と活動の支援】

施策	進展したこと(成果)	依然として課題となっていること
(2)市民活動センター機能の充実 ーつづきー		
③市民活動活性化事業 (人材・団体育成事業)【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ●市民交流センターの活用。特にスキルアップ講座。 ●交流センターで育成事業を実施しているにもかかわらず、参加できてないこと申し訳なく思っています。 →我々ももっと活用します。 ●福祉センターにて、マッチングに参加した際、良い取り組みだと思っし、マッチング成立事例もみた。 →自分のところだけでできること少ないので、良い機会。知ることできるように。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆講座やサロンにあまり興味、魅力のあるテーマがない。 →気軽にできる。ということが分かると良い。
④「団体登録申請書・活動報告書の書き方セミナー」開催事業		
(3)市民活動への財政的支援の充実		
①★市民活動補助事業(試行)	<ul style="list-style-type: none"> ●市民活動補助事業が実施され市民団体が市の課題に取り組む機会ができてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆市民活動補助事業の予算の計上に団体の人件費が計上できない仕組みになっている。労働に対する対価は認めるべき。 →活用するスタッフの人件費が認められていない。これからの制度設計。 →豊田市は明記され認められている。 ◆既存の団体が資金を得る方法が少ない。
②ふれあい補償制度事業	<ul style="list-style-type: none"> ●ふれあい補償は登録するだけで適用されるのでありがたい。 →保険はありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆活動メンバーの保険や届け出書類等の補助。 →保険、補助してもらえるとありがたい。食のイベント。 →保健所への届出。検便に費用がかかる。 →新しい団体向けの補助多いが、長く活動している団体への補助は少ない。
③協働のまちづくり基金制度の調査・研究事業		<ul style="list-style-type: none"> ◆助成支援の情報発信が少ないかも。 ◆基金設置事業は非常に良い取り組みだと思うが、周知広報活動。積極的に行うべき。
④基金設置事業		<ul style="list-style-type: none"> →草の根層への広報・働きかけを！！ →潜在的な方がいるなら情報しっかり発信したら。団体一歩手前の方に届ける。
⑤★基金を利用した市民活動補助事業		
⑥★協働事業提案制度事業		
⑦「団体登録申請書・活動報告書の書き方セミナー」開催事業【再掲】		

●=進展した点カードの意見、◆=課題となっていることカードの意見、→=シートに記載の意見・メモ

この4年間(安城市市民協働推進計画期間)で進展したこと、依然として課題となっていること(7/8)

【基本方針4:市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり】

施策	進展したこと(成果)	依然として課題となっていること
(1)市民協働の推進連携体制の構築		
① 協働推進員の配置	●全庁的に設置はできない。内部には難しいとわかったこと。	<ul style="list-style-type: none"> ◆財政の厳しい地方に協働のヒントあり。厳しい所ほど行政職員が地域で活動している。推進員の配置ができないのでは？全庁的な役所内部に設置するのではなく、外に出る配置しないとダメだと思う。 ◆これまではできなかったが、今後もできないということではない。ステップをおって実施。 ◆各課課長に対し協働教育を実施し、率先して推進していただく。 ◆たてわりの行政の中で協働推進員が何をするのかわからない。 ◆行政と町内会との連携について。 ◆推進員配置の工夫。従来の組織のワクを超えないとムリ…。
② 市民活動担当者の交流事業	<ul style="list-style-type: none"> ●市民活動担当者情報共有。 ●体制はできました。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯学習課や青年の家から講師登録がバラバラに届く。本当に共有されて活用されてる？ ◆有効に援能しているか。効果が問題。 ◆「ボランティア、市民活動団体等関係機関連絡会」内容に疑問。
③ 安城市市民協働推進会議の設置	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が参加する機会は増えた。 ●市民活動補助金を着々と進めている。 ●設置はされた。安城市の市議会の中では良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆PDCAがまわっているかわからない。 ◆推進会議→評価会議。
(2)中間支援組織の設立支援		
①協働サポータークラブ設立支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ●サポーターとして市民活動、協働を進めようとする気運は高まったかな。 ●設立はされた。 ●協働サポータークラブの設立完了。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆中身はこれから。 ◆組織の存在すら知らなかった。 ◆何をやるためのクラブか良くわからない。
② 市民協働コーディネーターの連携・交流事業	●まちづくり人養成講座が開催された。	<ul style="list-style-type: none"> ◆市民サポーターをフォローアップしてコーディネーターに育てるしくみがない。 ◆市民協働コーディネーター実際必要とされている。実支援をどんどん進めたら…。 ◆ニーズを明確にすることでサポーター、コーディネーターの活動がうまれてくると思う。
③ 市民協働コーディネーターの育成事業【再掲】	●協働サポータークラブの情報共有。	<ul style="list-style-type: none"> ◆コーディネーターをどのように育成していくかということ。 ◆コーディネーターの育成を通して、そのニーズにこたえていく必要がある。 ◆市民協働コーディネーターは何をするのか分からない。方向性が見えない。 ◆ある程度の町内会をまとめて地域づくりをするコーディネーターが育成されていない。 ◆ローカルガバナンス改革につながる支援がない。人材育成。 ◆マッチングにつながる市民活動団体になるといい。 ◆コーディネーターとしての活動をするために、市民活動団体や地縁団体、町内会等のニーズを調査する。

●=進展した点カードの意見、◆=課題となっていることカードの意見、→=シートに記載の意見・メモ

この4年間(安城市市民協働推進計画期間)で進展したこと、依然として課題となっていること(8/8)

【基本方針4:市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり】

施策	進展したこと(成果)	依然として課題となっていること
(3)協働事業の評価・報告・公表		
① 市民活動団体交流及び活動発表会事業 (わくわく交流会事業) 【再掲】	●協働サポータークラブが交流のサポートをしている。	◆社協のマッチング交流会と合同では無理？。 ◆個人ボラとして活動しようと思ってもムズイ。個人と団体をもっとコーディネートする場を。 ◆任意団体として市や市民交流センターと協働で活動していく。

●=進展した点カードの意見、◆=課題となっていることカードの意見、→=シートに記載の意見・メモ